

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

今は昔、比叡の山に^A児ありけり。僧たち、^①宵の^aつれづれに、「いざ、かいちちひせむ。」と言ひけるを、この児、心寄せに聞きけり。さりとして、し出ださむを待ちて寝ざらむもわるかりなむと¹思ひて、^②片方に寄りて、^B寝たるよしにて、出で来るを待ちけるに、すでにし出だしたるさまにて、^cひしめき合ひたり。この児、^Dさだめておどろかさむずらむと、待ちぬたるに、僧の、「もの申しさぶらはむ。^Eおどろかせたまへ。」と言ふを、^Iとは思へども、ただ一度にいらへむも、待ちけるかともぞ思ふとて、いま一声呼ばれていらへむと、^{念じて}寝たるほどに、「や、な起こしたてまつりぞ。^Fをさなき人は、寝入りたまひにけり。」と²言ふ声のしければ、あな、^{おびし}と思ひて、いま一度起こせかしと、思ひ寝に聞けば、ひしひしと、ただ食ひに食ふ音のしければ、^dすべなくて、無期ののちに、「⁶えい。」といらへたりければ、^H僧たち笑ふこと限りなし。

問 二重傍線部①・②の語の読みを、それぞれ現代仮名遣いで答えよ。 知

答 ① よい ② かたかた

問 破線部 a～d について、本文中での意味として最も適当なものを、それぞれ選べ。 知

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|-------|---|---------|---|-------|---|---------|---|-----------|
| a | ア | 楽しさ | イ | 気ままさ | ウ | 退屈さ | エ | 眠たさ | オ | 憂鬱さ |
| b | ア | 腹を立てて | イ | 念仏を唱えて | ウ | 我慢して | エ | 反省して | オ | 集中して |
| c | ア | つらい | イ | さびしい | ウ | つまらない | エ | 恐ろしい | オ | 悔しい |
| d | ア | 我を忘れて | イ | 何も考えないで | ウ | 情けなくて | エ | ためらわないで | オ | どうしようもなくて |

答 a ウ b ウ c ア d オ

問 波線部 1・2 について、それぞれの動作主を答えよ。 思

答 1 児 2 僧

問 傍線部 A を、適切な助詞を補って現代語訳せよ。 思

答 児がいた。

問 傍線部 B について、児が「寝たるよし」をした理由として最も適当なものを、次から選べ。 思

- ア 「かいちちひ」が出来上がるのを待つて寝ないでいるのはよくないことだと思つたから。
- イ 「かいちちひ」が出来上がったら、急に起き上がつて僧たちを驚かせようと思つたから。
- ウ 「かいちちひ」を作るのを夜中に手伝うはめになると、十分に眠れなくなると思つたから。

工 「かいもちひ」を上手に作れるのは僧だけで、自分にはその技量がなく邪魔になると思ったから。
オ 「かいもちひ」が出来上がるまで、部屋の片隅で待っているのは手持ちぶさただと思ったから。

答 ア

問 傍線部Cについて、ここでは誰が、どのようにしている様子を表しているか、空欄に適切な語を入れて文を完成せよ。 **思**

i が **ii** を作り終えて、 **iii** ている様子。

答 i 僧たち ii かいもちひ(ぼたもち) iii 集まって騒ぎ立て

問 傍線部D・Fを、全文ひらがなの現代仮名遣いで書け。 **知**

答 D さだめておどろかさんずらんと、まちいたるに、 F おさなきひとは、ねいりたまいにけり。

問 傍線部Eの現代語訳として最も適当なものを、次から選べ。 **思**

ア 驚かないでください。 イ お召上がりください。 ウ お目覚めください。

エ 準備してください。 オ お聞きください。

答 ウ

問 空欄Iに補うのに最も適当な語を、次から選べ。 **思**

ア うるさし イ すごし ウ あやし エ やむことなし オ うれし

答 オ

問 傍線部Gとはどの言葉に対する返事か。本文中から抜き出して答えよ(カギ括弧は不要)。 **思**

答 もの申しさぶらはむ。おどろかせたまへ。

問 傍線部Hの理由について、最も適当なものを、次から選べ。 **思**

ア 「かいもちひ」ができた僧たちを出し抜こうと思って寝たふりをしていた児が、我慢できなくなって、大きな声を出してしまったから。

イ 「かいもちひ」を食べたい気持ちを我慢して寝たふりをしていた児が、こらえきれなくなって、間の抜けたタイミングで返事をしたから。

ウ 「かいもちひ」を作る僧たちのにぎやかな話し声で起きてしまった児が、寝ぼけながら食い意地の張った発言をしたのがおかしかったから。

エ 「かいもちひ」ができたら一番に食べようと思って寝ていた児が、先に僧たちが食べてしまったのに気づいて、あわてて起きてきたから。

オ 「かいもちひ」を食べる音を僧たちが必要以上に立てていることに腹を立てた児が、抗議の声を上げたのがかわいらしかったから。

答 イ

問 児が寝たふりをしていることに気づいていた僧になったつもりで、その心情を自由に述べよ。 **主**

答 (略)

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

今は昔、比叡の山に^①児ありけり。僧たち、宵^②【の】つれづれに、「いざ、かいもちひせむ。」と言ひけるを、こ^③【の】児、心寄せに聞きけり。さりとして、し出ださむを待ちて寝ざらむもわるかりなむと思ひて、片方に寄りて、寝たるよしにて、^A出で来るを待ちけるに、すでにし出だしたるさまにて、ひしめき合ひたり。

この児、^Bさだめておどろかさむずらむと、待ちぬたるに、僧^④【の】、「もの申しさぶらはむ。^Cおどろかせたまへ。」と言ふを、うれしとは思へども、ただ一度にいらへむも、^D待ちけるかともぞ思ふとて、いま一声呼ばれていらへむと、念じて寝たるほどに、「や、^Eな起こしたてまつりそ。をさなき人は、寝入りたまひにけり。」と言ふ声のしければ、^Fあな、わびしと思ひて、いま一度起こせかしと、思ひ寝に聞けば、ひしひしと、^Gただ食ひに食ふ音のしければ、すべなくて、^②無期^④【の】のちに、「えい。」といらへたりければ、僧たち笑ふこと限りなし。

問 二重傍線部①・②の語の読みを、それぞれ現代仮名遣いで答えよ。 知

答 ① ち^一 ② む^二

問 次の傍線部の動詞の基本形を、それぞれ歴史的仮名遣いのひらがなで答えよ。 知

- (1) 児^一ありけり。 (2) 言^二ひけるを、 (3) 寝^三ざらむも (4) わるかりなむと思^四ひて、

答 (1) あり (2) いふ (3) ぬ (4) おもふ

問 一【部 a～d の】ののうち、他と意味・用法が異なるものを、次から一つ選べ。 知

答 c

問 傍線部 A の主語を本文中から抜き出せ。 思

答 かいもちひ

問 傍線部 B の解釈として最も適当なものを、次から選べ。 思

- ア きつと僧たちは自分(児)をびつくりさせるつもりだろう。
 イ きつと僧たちは自分(児)を起こすだろう。
 ウ きつと僧たちは自分(児)をびつくりさせることはないだろう。
 エ きつと僧たちは自分(児)を起こさないだろう。
 オ きつと僧たちは自分(児)が起きたらびつくりするだろう。

答 イ

問 傍線部 C を(1)現代語訳し、(2)誰に対する誰の言葉か答えよ。 思

問 傍線部Dの省略を補った解釈として最も適当なものを、次から選べ。 **思**

ア ぼたもちを食べるのを待っていたのかと僧たちは思うだろう。

イ 僧たちが起きるのを待っていたのかと児は思うだろう。

ウ ぼたもちを食べるのを待っていたのかと児が思うと困る。

エ 起こされるのを待っていたのかと僧たちが思うと困る。

オ 児がずっと起きてぼたもちができるのを待っていると困る。

問 傍線部Eの現代語訳として最も適当なものを、次から選べ。 **思**

ア 起こし申し上げるな。 **イ** 起こし申し上げなさい。

エ 起こし申し上げたい。 **オ** 起こし申し上げてもよい。

ウ 起こし申し上げてほしい。

問 傍線部F・Gをそれぞれ現代語訳せよ。 **思**

答 F ああ、つらい G ただひたすら食べる音がしたので、どうしようもなく、

問 この話からうかがえる児と僧たちの日ごろの関係について、五人の高校生が話し合った。解釈として最も適当なものを、次から選べ。 **思**

ア 児は僧たちからの尊敬を集める一方で、かわいがられる存在でもあるね。敬語を使って話しかけているし、最後の大笑いからは温かなまなざしが感じられると思うな。

イ 僧たちは児を厳しく教育し、児もそれに応えようと修行に励んでいるね。疲れから寝てしまった児にぼたもちを作ってあげるとは、僧たちもなかなか思いやりがあるなあ。

ウ 児は僧たちに子供扱いされていて、まだ一人前として認められていないね。わざとらしい敬語の使い方や、最後の馬鹿にしたような笑いなど、ちよつと児がかわいそうだと思つたよ。

エ 僧たちの戒律を守った生活を見て、児は非常に感心しているね。僧たちの発言を期待して聞いていることから、自分も大きくなったらあんな僧になりたいという思いが感じられてほほえましかった。

オ 児は僧たちに遠慮しているし、僧たちもまた児に遠慮しているんじゃないかな。児は自分もぼたもちを食べたいという希望を正直に話せていないし、僧たちも敬語を使って距離をとろうとしているみたい。

答 (1) お目覚めください。(2) 児に対する僧の言葉。

答 エ

答 ア

答 ア

次の文章は『宇治拾遺物語』で「児のそら寝」の直後に収録されている文章である。読んで、後の問いに答えよ。

これも今は昔、田舎の児の^①比叡の山へ登りたり¹けるが、桜の²めでたく咲きたりけるに、風のはげしく吹きけるを見て、^Aこの児さめざめと泣きけるを見て、僧の³やはらよりて、「^Bなごかうは泣かせ給ふぞ。この花の散るを惜しうおぼえさせ給ふか。桜ははかなき物にて、かく程なく⁴うつろひ候ふなり。^Cされども、さのみぞ候ふ。」となくさめければ、「桜の散らむは、⁵あながちにいかがせむ、苦しからず。我が父の作りたる麦の花の散りて、実の入らざらむ思ふがわびしき。」と言ひて、さくりあげて、**I**と泣きければ、⁶うたてしやな。

口語訳

これも今となつては昔のことであるが、田舎の児が比叡山へ登って修行していたところ、桜がすばらしく咲いていた時に、風が強く吹いたのを見て、この児がさめざめと泣いたのを見て、僧がそつとそばによつて、「どうしてこのようにお泣きになるのですか。この花が散るのを惜しくお思いになるのですか。桜ははかないものなので、このようにすぐに散るのです。そうではあるけれど、それだけのことです。」と慰めたところ、「桜が散るのは、無理にどうすることもできないので、不都合はない。私の父が作っている麦の花が散って、実らないと思うのがつらいのだ。」と言つて、しゃくりあげて、おいおいと泣いたので、がつかりすることだよ。

問 二重傍線部①について、(1)寺院名を漢字三字で答えよ。また、(2)現在の何県にあるか漢字で答えよ。 知

答 (1) 延暦寺 (2) 滋賀県

問 波線部1～5の品詞名をそれぞれ答えよ。 知

答 1 助動詞 2 形容詞 3 副詞 4 動詞 5 形容動詞

問 傍線部Aの理由を表している箇所を古文の本文中から三十字程度で抜き出せ。 思

答 我が父の作りたる麦の花の散りて、実の入らざらむ思ふがわびしき。(31字)

問 傍線部Bを、全文ひらがなの現代仮名遣いで書け。 知

答 などこうはなかせたまうぞ。

問 傍線部Cはどのような発言か。最も適当なものを、次から選べ。思

ア 桜が風で散るのを惜しむとは大人びたことだと、泣く児の風流さに驚く発言。

イ 桜が散るのはこの世の定めなので泣いても仕方ないと、泣く児にあきれる発言。

ウ 桜の花は強い風で散るが麦の花は強い風でも散らないと、泣く児を元気づける発言。

エ 桜はまた来年も咲くのだから散るのを惜しまなくてもよいと、泣く児を説得する発言。

オ 桜はすぐに散るものと決まっているのだから嘆くことはない、泣く児をいたわる発言。

問 空欄Iに補うのに最も適当な語を、次から選べ。知

ア やや イ むろ ウ ゆゆ エ 多々 オ よよ

問 傍線部Dの説明として最も適当なものを、次から選べ。思

ア 語り手が僧の思いを代弁している。イ 語り手が児の思いを代弁している。

ウ 僧が児の思いを代弁している。エ 僧が読者の思いを代弁している。

オ 児が僧の思いを代弁している。カ 児が読者の思いを代弁している。

問 「児のそら寝」と本話の共通点として最も適当なものを、次から選べ。思

ア 児の真意を理解できない僧の愚かさを批判している点。

イ 児に対する僧の温かなまなざしや愛情が感じ取れる点。

ウ 食欲を隠せない児のほほえましい姿を活写している点。

エ 物事に対する大人と子供の解釈の違いを示している点。

オ 僧と児が水面下で交わす激しい心理戦を描いている点。

答
イ

答
ア

答
オ

答
オ